
令和7年度 伊勢市防災会議

令和8年3月27日(金)14:00~
伊勢市防災センター4階多目的ホール

【議事】

1. 議案第1号：伊勢市地域防災計画の修正について（承認）

● 災害対策基本法等の法改正に伴う修正

以下の項目について計画に反映。

- ・ 広域避難者の情報提供
- ・ 被災者支援協力団体
- ・ 防災DXの活用
- ・ 備蓄状況の公表
- ・ 福祉サービスの提供 など

● 三重県地域防災計画の改定に伴う修正

以下の項目を追記。

- ・ 衛星通信機器（スターリンク）の活用
- ・ 三重県公式アプリ「みえ防災ナビ」の活用

● 避難所指定・協定締結に伴う修正

以下の施設について追記。

- ・ 小俣図書館（指定一般避難所）
- ・ ナーシングホーム・マリモ（指定福祉避難所）
- ・ 恩学堂（応援部隊の活動拠点）

2. 議案第2号：伊勢市南海トラフ地震防災対策推進計画の修正について（承認）

- 内閣府のガイドライン改定に伴い、すぐに避難行動ができる体制の維持や非常時の持ち出し品の準備など、特別な備えに関する記述を新たに追加。

3. 議案第3号：伊勢市地震防災強化計画の修正について（承認）

- 上水道施設における「送水」から「配水」への表記見直しや、「コンピューター」から「情報システム等」への表記修正など、現状に合わせた軽微な修正を実施。

4. 議案第4号：伊勢市水防計画の修正について（承認）

- 河川・沿岸の区域、水防警報発表の基準、洪水予報の区域、指定河川および水位観測所の修正などを実施

【報告事項】

1. 伊勢市の防災にかかる取り組みについて（危機管理部）

● 木造住宅の耐震化促進

昭和 56 年以前の建物を対象に、耐震補強工事の補助金を最大 117 万 5 千円に増額し、新たに耐震シェルター設置に 100 万円の補助を開始。令和 8 年度の完了を目指し、建築士と連携して個別訪問を前倒して進めている。

● 施設整備

・ 宇治防災倉庫

宇治浦田駐車場に約 5,000 人分の物資を備えた「宇治防災倉庫」が完成。

太陽光発電・蓄電池完備で携帯電話の充電が可能。

・ 防災井戸

令和 7 年度は、新たに 7 箇所を整備完了予定。

● カムチャツカ半島を震源とする地震の津波警報対応と評価

約 1,160 人が避難したが、避難対象地域全体の約 80%が避難せず、警報発表中に帰宅したケースも見られた。熱中症アラートもある中での難しい判断となったが、今後は家庭での避難ルールの決定や声かけの促進、避難準備時間の短縮に向けた啓発を行う。

● 図上訓練を通じた課題抽出

災害対策本部にて関係団体も参加した図上訓練を実施。チーム間の連携不足や時間管理、目標設定の実践といった課題が抽出されたため、継続して訓練を行っていく。

● その他

津波や土砂災害のリスクを考慮し、小俣町地内へ上下水道部庁舎を小俣へ移転した。また、おはらい町会議では、宇治防災倉庫の落成に合わせてオレンジの旗を使った観光客の避難誘導訓練や、店舗の在庫を活用するローリングストックの取り組みを実施した。

2. 新たな防災気象情報の運用について（津地方气象台）

● 令和 8 年 5 月より、防災気象情報がシンプルで分かりやすく再構築される。

● 住民の避難行動に対応する 5 段階の警戒レベルに整理され、レベル 4 相当の情報として**「危険警報」**が新設される。

● 情報名称が現象ごとに「河川氾濫」「大雨」「土砂災害」「高潮」に統一され、それぞれに注意報・警報・危険警報・特別警報が設定される。

● 新たな情報として、5 日先までの警報級の可能性を知らせる「早期注意情報」、現象の推移を色分けして伝える「時系列情報」、極端な現象を伝える「気象防災速報（線状降水帯直前予測など）」の運用が開始される。

【その他】

● 明倫地区の取り組み

「めいりんまちフェス」にて、子どもたちによる木遣り唄の披露やゲームを通じて、地域全体で防災を自分事として考える取り組みが行われ、前年の 3 倍の来場者を集めた。